

平成30年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」

第1回「もったいない鬼ごっこ～フードロスを考える」（テーマ：食・ごみ）

- 実施日時 平成30年7月27日（金）10時00分～16時15分
- 受講者数 18名（教員15名、研修・聴講者3名）
- 実施場所 墨田区総合体育館（墨田区錦糸）
- 実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義

（ゲストティーチャー：NPO法人ハンガー・フリー・ワールド 儘田由香氏）

(1) 「もったいない鬼ごっこ」の体験

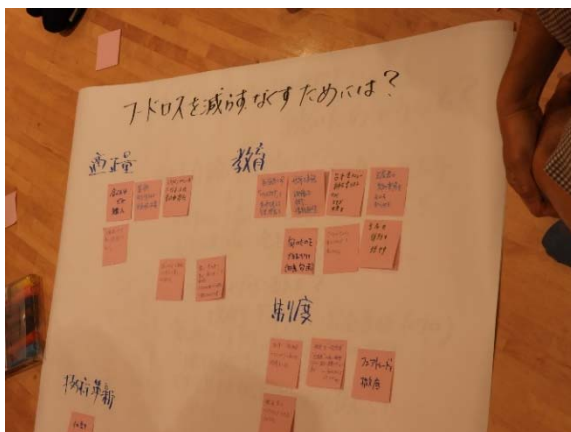
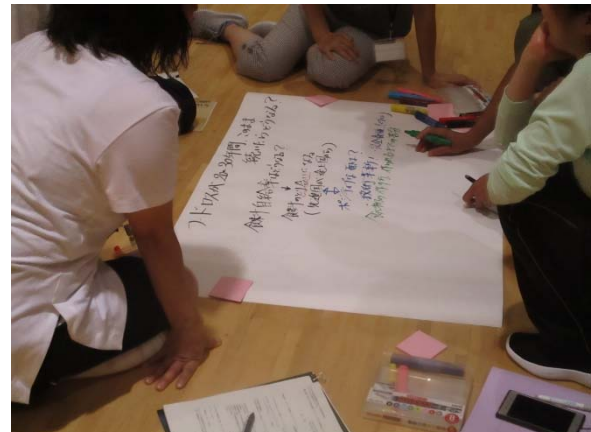
- ・自己紹介
- ・「もったいない鬼ごっこ」の体験。参加者は「食材」になり、「フードロス鬼」から逃げる。食材が生産され、加工され、流通に乗って消費されるまでをめぐり、無事に食べられればゴール。鬼ごっこを楽しみながら、生産、加工、流通、消費の各段階で起こりうるフードロスの状況等を考えることができる。





(2) 振り返りワークショップ

- ・「フードロスがこのまま増え続けるとどうなると思いますか?」「フードロスをなくすために、何ができるとと思いますか?」を、グループで話し合い、どのような話が出たかをグループごとに発表。



【午後】

3. 環境学習プログラム「食べ物からエコを考えよう！」の紹介及び実習

(講師:NPO 法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・環境学習は、命について考え、学ぶ学習である。子供は実際に物事を体験する中で、理解し、気づき、学んで成長する。
- ・「森は命のみなもと」である。体験を通して、自然に生かされていることを感じ、自然を大切にできるようになる。
- ・どんな教科でも環境学習につながる。今回の研修会も食やごみ、自然、エネルギーなど様々な入口があるが、出口は一緒である。

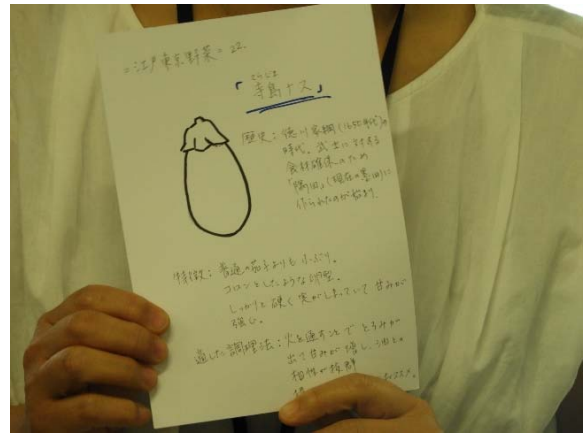
(2) 食を考える授業のポイント解説

- ・地産地消や旬は食べることの基本。食べることは、生きることであり、命について考えること。
- ・食べ物と自然のつながりを知ることも大切である。都会に住むと自然とのつながりを感じにくい、食べ物はすべて自然の恵みであり、命は自然に支えられている。
- ・食育は正に命の学習であり、食べられることや自然への感謝の気持ちの醸成につながる。



(3) 「食の歴史を知ろう！」プログラム紹介と体験

- ・食料生産について学ぶ学習に、江戸東京野菜（地産地消）や旬などの視点を取り入れることにより、食と命、環境のつながりを学ぶ。
- ・地産地消の観点から、江戸東京野菜の歴史と種類を調べ、江戸東京野菜図鑑を作ってみる。班ごとに選んだ理由や特徴を発表。



(4) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- もったいない鬼ごっこをどのように授業に紐づけていくか考えたい。
- 子供たちに実感を持たせるには、体験させることが必要。
- 低学年なら生活科、中学年なら水の教育、高学年なら家庭科で取り入れていくことができるのではないか。
- 学校でできることには限りがある。フードロスの問題は、家庭を巻き込まないといけない。
- 担任の先生が、給食を美味しそうに食べる姿を見せることも大切。
- 食に困っていない子供たちに自給率の低さを実感させるのは難しい。ハンバーガーや牛丼など身近な食べ物から自給率を考えるのも有効。

4. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散